

令和元年度 久留米市文化財専門委員会 会議録

1. 開催日時：令和元年7月22日（月） 10：30～12：05
2. 会 場：久留米市役所 1303会議室
3. 参加委員：木下尚子委員、横山邦繼委員、重松敏彦委員、大森洋子委員、森山秀子委員、
内山一幸委員、永松義博委員、橋川ひろみ委員、段上達雄委員、鳥丸貞恵委員、
久富真人委員、堀田秀茂委員
4. 事務局：竹村、水島、久保田、白木、丸林、水原、江島、神保、原口、箔谷
5. 議 事
 - (1) 開会、会長・副会長選任、部会長選任、教育長挨拶、会議成立報告
 - (2) 確認：平成30年度文化財専門委員会議事録
 - (3) 報告：平成30年度の事業報告
※ 配付資料に基づき、事務局から説明
【質疑応答】
(委 員) 23ページ③採集資料にある、横矧板鋌留短甲の採集の経緯を教えて欲しい。
(事務局) 田主丸町水縄小学校に永らく保管されていたもので、教育委員会から当課へ移管されたものを採集資料とした。
(委 員) 短甲の出土地は分かっているのか。
(事務局) 矢野一貞の『筑後将士軍談』に田主丸の「外野」から出たとされているが、正確な場所は分からない。
(委 員) 『筑後将士軍談』の短甲と同じとする根拠は。
(事務局) 背の部分など、矢野一貞のスケッチと酷似している。
石垣観音寺に保管されていたものが、何らかの理由で水縄小学校に移されたもので、
益生田の古墳から出土したのではないかと推測される。
(委 員) 錆びが進行しているのではないか。
(事務局) 錆びてはいるが良質な錆びであり、現状のままでの保管が可能で、収蔵館で保管している。
 - (4) 報告：令和元年度の事業概要
※ 配付資料に基づき、事務局から説明
【質疑応答】
なし
 - (5) 報告：次年度以降の諮問予定資料の概要
※ 配付資料に基づき、事務局から説明
【質疑応答】
(委 員) 正福寺遺跡と久保遺跡は、遺構は保存されているのか。
(事務局) 現在、正福寺遺跡は道路、久保遺跡は城島中学校になっており、遺跡そのものは保存されていない。
 - (6) 報告：久留米市文化財保存活用地域計画策定についての概要
※ 配付資料に基づき、事務局から説明
【質疑応答】
(委 員) 都道府県が大綱を策定することとなっているが、久留米市は独自で策定するのか。

(事務局) 県の大綱がなくても策定は可能だが、久留米市は県と相互に情報共有しながら策定していく。

県も大綱を作成中であり、並行して進めていく。

(委員) 地域計画は先に国が指針を示すのか。

(事務局) 既に国がガイドラインは出している。

(委員) 久留米市ではどのような地域計画を作成するのか、また、その位置付けなどを教えて欲しい。

(事務局) 久留米市の地域計画は、文化財を守り、将来に残すことを第1義に考え、活用とのバランスを保ったものとしたい。また、市のマスタープランとして位置づけ、文化財保護事業を進める。

(委員) 地域計画は、指定・未指定に関わらず、文化財の保存活用に関する計画で、認定を受けると未指定文化財にも補助金が付くと聞いているが。

(事務局) 計画に乗せることで、未指定の文化財も国の財源(交付金)を確保し、保存して活用を図っていける。久留米市も計画に乗せていく。

(委員) 地域で残していくのは大変だと思うが期待している。

(委員) 昨今の自然災害によって文化財が被災する例もあり、古文書なども含めてしっかり残して欲しい。

(事務局) 地域の中に入って説明し、残せるものは残していくことで、さらに地域の人々にも知って貰い継承していく。計画策定期間中で終わるものではないので、それを計画の中に位置づけ、仕組みづくりをしていく。

(7) 報告：その他

【質疑応答】

(委員) 久留米市が所蔵する古文書の目録を作成できないか。市史以降のものがなく、印刷物は難しいかも知れないが、例えばPDFなどにして公開し、情報発信をして欲しい。

(事務局) 早急にできるものではないが必要性は認識しており、検討させていただく。

6. 閉会挨拶(事務局 竹村)